

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年9月11日（火） 午後7時～8時40分
会 場 亀居分館（亀居町会）
天 気 晴れ

参加者 15人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

◆災害が起きたとき、私は一人暮らしだが、もし、無事に元気でいられたら、人助けなどに関わりたいが、どこにいったらいいのか。

☆このエリアの指定避難場所は鶴ヶ丘小学校になっているが、すぐにそこを目指すことはない。震災はいつ発生するかわからない中で、時間帯によっても季節によってもどこがまず身の安全を確保するのに適しているのか、という判断をして欲しい。真冬の夕飯時などの例で、火の手が避難所方面から上がっている状況下において、わざわざ避難所を目指すことはない。近所の空き地や畑でもまずは自分の身を安全な場所に移して欲しい。この意識は普段から頭において欲しい。今日、参加されていない地域の皆さんにもこのことは伝えてもらいたい。また、文京大学も一次避難所になっているので、わざわざ遠い場所を目指して避難するよりも、身近で安全な場所という状況であれば、そこを利用し身の安全を確保するのも一つの方法である。

地元に住んでいる市の指定職員は、災害発生後において、役所に参集するのではなく、まず直接、指定避難所に向かい、地域の皆さんとともに、避難所の開設・運営にあたることになっている。市役所と各避難所は無線で連絡を取り合うしくみとなっている。地域の避難所等では、警察・消防・自衛隊などのOBの力を借りることや、ボランティア活動をされている方々のお力を借りたいと思っている。

◆合併特例債の関係をさきほど市長から伺ったが、国の財政状況も逼迫している状況の中で、工事事業者等にはきちんと国から支払いはされるのか。

☆事業者等への支払いはふじみ野市が行い、国からは交付税として事業費の7割分がふじみ野市に入ってくるしくみ。最新鋭の設備を備えた新しい清掃センターを上福岡清掃センターの隣に建設予定だが、総事業費211億の大事業である。この事業は三芳町との共同事業であるが、我がふじみ野市については合併特例債が使えるが、三芳町はその手当てはない。これも非常に有利な状況だと言える。

◆今後の特例債の使い道は決まっているのか。

☆本庁の耐震補強工事や大井清掃センターの再利用について、活用していければと考えている。特例債事業はかたちとして何かを造成しなければ使えない制度

になっているため、例えば大井清掃センターの跡地についても、スポーツゾーンとしての活用などができるか、今、検討しているところである。スポーツゾーンとしては上福岡エリアにもその位置付けがあることから、なるべく重複を避け、無駄の無いように取り組んでいきたい。大井地域からはテニスコートの要望があり、上福岡地域からは総合体育館建設の要望があったが、医療費や扶助費の増大が進む中、優先順位を考慮するとすべて要望に応えることは難しいと判断し、それよりも小中学校の耐震補強を最優先に行ってきた状況である。上福岡駅付近の東西連絡道路の構想についても、50億も60億もお金をかけられないということから中止にした。

◆お陰様で町会の防災倉庫が公園に設置できた。これからは、中身の充実を図っていかなければならないと考えている。また、この地域には集会所が無いことから、自分たちで積み立てなどをしていかなければと思っているが、書類づくりの点など難しくて、手を焼いている状態なので、市からも何らかの支援をいただければと思う。

☆合併後のふじみ野市が抱える両地域間の差異として、集会所の位置付けが最大のテーマだと思っている。上福岡地域では土地を市が提供し、建物は各自治組織で積み立てや寄付を募りながら、市や県からの補助金を活用し建てているのが現状である。大井地域では昔からの流れで、町が各地域に公民館分館として設置してきた。税金を使って分館の椅子から机、カーテンの類までを町が備えてきた経緯があり、今現在もその両地域の差異が非常に難しい問題となっている。

◆我々は市に『おんぶにだっこ』という訳にはいかないと思っている。

☆こちらの地域については、公共施設もあちこちが借地になっており、今後においてお金がいくらあっても足りない状況である。今の時代に合った政策を行い、持続可能なふじみ野市にしていかなければならない。そのためには、基金などの積み立ても非常に大切である。市の財政も皆さんのお宅の家計と一緒にあり、収入が減ればそれに見合ったお金の使い方をせざるを得ない。贅沢品は押さえて優先順位の高いものから限られたお金を充てていく。健康な大人は少し我慢することになっても、子どもやお年寄りのためにお金を使っていくということである。そんな状況下において、きりつめながら今年度は災害対策費を組ませてもらったが、各ご家庭においても備えられるものはお願いしたい。例えば、垂木一本でも用意してもらえたら、被災後にそれがジャッキの役割を果たすかもしれない。それと、枕元にスリッパや靴などを置いておくのも一つの方策である。被災後にいろいろなものが散乱している場所を素足で歩くのは、大変危険である。タンスの転倒防止等、何でも良いからお金をかけずともちょっとした備えをお願いしたい。

先ほど指定避難所に行くまでの間の、身近で安全な場所というお話をさせてもらったが、地震は自宅にいる時に起こるとは限らない。いつもそのような心の準備をしておくことが大切である。災害協定に関しては、近隣市はもとより、

遠隔地からの支援も求めるべく、栃木県日光市、山梨県甲斐市、長野県飯田市と既に結んでいる。今後は更に群馬県の安中市とも協定を結んでいく予定である。広いスペースを持っている大型量販店などとも連携を図ることとなっている。

◆水害関係については、どのように考えているのか。

☆津波による影響で荒川が決壊するような被害については、200年に一度起こるか起こらないかという想定なので、ほとんど心配に及ぶものではないとされているが、国は被害想定の見直しを現在かけている状況にあり、今年の冬頃には詳細が示される予定である。

◆ふじみ野市では井戸水は使われているのか。

☆ふじみ野市の井戸水（特に西地域）については、量・質ともに恵まれている状態であり、全体の3割程度を井戸水で対応している。消毒しなくてもそのまま飲めるほどの良質な井戸水であるとのこと。

◆地下水を使っている企業はあるか。

☆あるが、地盤沈下を心配するほどではない。

◆高圧線は震度いくつぐらいまで耐えられるか。また、線が切れた時はすぐ止めるのか。

☆送電はすぐストップされると思うが、震度の関係と併せて後ほど確認し内容をお知らせします。

◆人口が増えた影響なのか、ふじみ野駅近辺にある自転車駐輪場がいつもいっぱい停められない。何とか増やしてもらえないか。

☆課題として頭に入れさせてもらいたいが、駅自体の所在が富士見市のため、対応について難しい面がある。

◆鶴ヶ丘小学校のすぐそばに住んでいるが、孫が亀久保小学校まで通っている。学区を見直してはもらえないか。

☆鶴ヶ丘小学校は児童数が増えており、プレハブ校舎での対応などもしていることから、学区の見直しは難しいものと考えます。学区問題はどこの地域においてもデリケートで配慮を要する問題という認識をしています。実情的にも住宅開発のスピードが速く、それに伴い児童数の変化も激しいため、対応するには難しい。ちなみに、亀久保小学校と三角小学校は来年から大規模改造工事に取りかかる予定である。

◆教室にクーラーは入っているか。

☆我々が育った頃とは違い気温の上昇が激しく、毎日のように35度ちかくなっている状況においては、そろそろ考えなくてはいけないという認識である。しかし、西原小学校を実際に訪問した時に感じたこととしては、『子どもは意外に元気だな』という感想で、大人の教師の方が辛そうだったことが印象的であった。訪問の際、養護教員と冷房のことについて話したが、義務教育の期間であるいわゆる成長期に冷房漬けの生活をしてしまうと、体温調整能力が低下してしまい良い影響はないとのことであった。

- ◆社協で震災シミュレーションを見たが、一度見ただけで防災意識がとても高まったので、できればいろいろなところで同様な内容に取り組んでもらいたい。
- ☆3. 11から今日で1年半が経過する。そんな中で日頃感じることとしては、あの日の意識が段々と薄れてきていることである。あの出来事を決して風化させてはいけない。教訓として防災意識に活かさなければならない。今後も積極的に防災意識を高めるために、啓発に努めていきたい。最大限に力を注いでいきたいと考えている。
- ◆今日のような機会をつくってもらい、市長がふじみ野市のことをよく考えてもらっていることがわかった。今後もこのような機会をもっとたくさんつくってもらえたらと思う。もう、西も東も無いと私は思う。今まで市長と直接話す機会が無かったので、今日のことは本当に有意義だった。